

国語 第6学年 知ってほしい、この名言 検討会の想定問答

指摘 1：この単元で身に付けることは何か。

返し：紹介したい言葉と自分の経験・考えを関係付け、選んだ理由が伝わる文章を書く。出典の確認できない名言を本人の言葉と断定しない。B(1)アの学習として、出典を確認した記録、紹介する目的、経験との関係、自分の紹介文。

指摘 2：何をもって学習できたと判断するか。

返し：おおむね満足できる状況は、目的に合わせて材料を関係付け、紹介する言葉について伝えたいことを明確にしているという姿で捉える。語句や本文を示さず結論だけ述べる場合は、根拠を確かめる支援を行う。発言の回数や記述の長さでは判定しない。B(1)アの姿を本時の発言と記録に照らす。

指摘 3：活動が楽しいだけで終わらないか。

返し：出典を確認した記録、紹介する目的、経験との関係、自分の紹介文を残す。活動後に、どの言葉を根拠にしたかを確認することで、B(1)アに関わる学習の中身を確かめる。

指摘 4：つまり児童にはどんな支援をするか。

返し：ネット画像だけで発言者を決める、引用だけで自分の理由を書かない。これに対して、学校図書館の本や一次資料で出典を確かめる。配布案には既存の言葉を転載せず、題名・著者・出典の記録欄と、選んだ理由・経験の欄を分けて用意する。〔知識及び技能〕(2)イとB(1)アを切り離さず扱う。

指摘 5：考えが違ったときはどう扱うか。

返し：教師の結論を選ばせず、「その言葉のどこが、自分の経験や考えと関係していますか」に戻す。言葉や本文で確かめられる点と、個人の感じ方を分け、B(1)アに関わる根拠を話し合う。

指摘 6：本時の評価で態度まで決められるか。

返し：本時の参加の様子だけでは決めない。学年の目標(3)を受け、単元を通した記録と見直しの理由を合わせて判断する。発言の多さや従順さを態度の評価にしない。

指摘 7：端末がない学級でもできるか。

返し：出典を確認した記録、紹介する目的、経験との関係、自分の紹介文は紙に記録できる。端末があれば書き直し前後を保存して比較する。道具の操作をB(1)アの評価の代わりにしない。

指摘 8：時間が足りないとき、どこを残すか。

返し：総時数の出典は光村図書出版の年間指導計画である。活動量を調整する場合も、本時の問いを自分で考える場面と、根拠を比べて記録を見直す場面は残す。B(1)アで目指す姿が確認できるように配当を組み直す。

指摘 9：この教材で、誤りやすい点をどう確かめるか。

返し：ネット画像だけで発言者を決める、引用だけで自分の理由を書かない。学校図書館の本や一次資料で出典を確かめる。配布案には既存の言葉を転載せず、題名・著者・出典の記録欄と、選んだ理由・経験の欄を分けて用意する。

指摘 10：振り返りを感想だけにしないためには。

返し：「その言葉のどこが、自分の経験や考えと関係していますか」への答えを学習前後で読み比べる。変えた点に加え、理由を確かめて残した点も書く。B(1)アに関わる言葉の捉え方・使い方を記録する。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

